

国際ロータリー第2560地区
ガバナーテーマ

再生・新生・共生

高田ロータリークラブ
今年のスローガン

ロータリーを楽しもう！
夢と誇りをもって



2022-2023年度

国際ロータリー会長 ジェニファー・ジョーンズ

第2560地区ガバナー 高橋 秀樹

高田ロータリー会長 高橋 正彦

幹事 飯塚 宏佳

事務局：新潟県上越市西城町2-10-25 大島ビル201号

TEL (025)526-3288 FAX (025)526-3534

メールアドレス：takadarc@joetsu.ne.jp

例会場：デュオ・セレッソ TEL(025)526-3111

広報・会報・雑誌委員会：

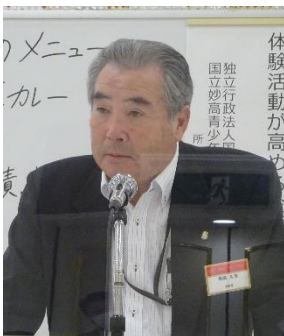
伴 長門・齋藤俊幸・藤林陽三・出澤英則

第6回例会 8月19日(金)

No.6

会長挨拶

●高橋正彦



皆さんこんにちは。

8日の納涼会に、コロナ禍にもかかわらず、参加を頂きましてありがとうございました。また、親睦委員会には、楽しい企画をしていただき、大いに盛り上げていただき、楽しい一夜を、すごさせていただきました。大変ありがとうございました。私をはじめとし、酒を愛する方が多くおられるのかな？

同じ酒を飲むにも、その飲み方によって、体に与える影響はずい分違ってきます。いい例が肝硬変です。これは、酒飲みがかかりやすい病気の一つですが、どちらかという「一人酒場でむつつりと」というような、暗い酒の人に多いそうです。一人で暗く

飲む酒がいけないのは、ストレスを増すだけだからです。

たとえ心の憂さを晴らすため、精神的ストレス解消のために飲むのであっても、肉体的には、酒を飲むことそのものが、かなりのストレスなのです。胃は休めないし、肝臓も疲れます。心臓にも負担がかかります。そこに、さらにストレスを持ち込んだらどうなるか、胃が胃酸を過剰に分泌し、胃潰瘍になる恐れもあります。悩み事を引きずって飲む酒、飲みたくもない相手と飲む酒、ヤケ酒などいやいや飲む酒は禁物です。酒を飲むなら、楽しく、明るく飲みましょう。ただし、飲みすぎには注意です。

本日は臨時総会を開催させて頂きます、よろしくお祈いします。なお、本日の卓話は、国立妙高青少年自然の家の所長 小林朋広様です。演題は「体験活動が高める企画力、組織力」です。ご清聴お祈いします。

出席報告

出席率 98.11%

臨時総会

8月19日(金)規定となる総会の成立を確認後、高橋会長が議長となり臨時総会を開催しました。「2021-2022年度決算報告」について満場拍手にて承認されました。

メイクアップ

高坂光一君 (8/6 ロータリー財団地区資金監査)

セレモニー



ポールハリスフェロー表彰：
橋本 眞孝君

ニコニコBOX紹介

神田和明君：このたび「日本ワインコンクール2022」で岩の原の「ヘリテイジ 2019」が金賞を受賞した

しました。日頃の皆様のご支援・ご協力に心から感謝いたします。

委員会報告

親睦委員会：8月の会員お誕生日各お祝い



大島 誠君：8/26 清水 RC 来訪懇親会について

会員インフォメーション

大島 誠君：大島グループ 100 周年のご案内

神田和明君：10/1-2 新潟プライド IN 横濱のご案内

幹事報告

配布物：会報No.4.5、2021-22 年度会計報告、ロータリー財団寄付金領収書回覧物：財団ニュース 8 月号、10/1-2 新潟プライド IN 横濱チラシ

回覧物：ガバナー月信 8 月号

卓話

「体験活動が高める企画力、組織力」

国立妙高青少年自然の家 所長 小林 朋広 様



今年 3 月、末松前文部科学大臣が、報道発表で「令和 4 年度は体験活動推進元年である。」とし、コロナ禍で縮小した「リアルな体験」の機会の充実を説いた。先に、文部科学省は、「小学生の頃に体験活動などをよくしていると、その後の成長に良い影響が見られること」「体験をよくしていると、家庭の経済状況に関わらず、良い影響が見られること」を経年的な視点からの分析で明らかにしている。特に青少年教育では、以前から体験活動の効果として、規範意識、人間関係能力、自己有用感など社会性を育成できることが指摘されてきた。

様々な年齢層に体験活動を提供し、その場面を観察している施設職員として、社会人になっても体験活動（自然体験、社会体験、文化・生活体験）は重要であり、特に自然体験活動は、業務の企画力や職場の組織力の向上にも役立つと確信している。

自然に触れ、リラックスして、ストレスを減少できることにより、柔軟な発想ができ、前向き、積極的になれる。変化する自然の中では新たな発見が多々あり、多面的な見方や考え方ができるようになる。五感で感じることができ、そこに感動が伴い、感性が豊かになる。また、本物に触れることで知識が机上のものではなく、生きた確かな知識となる。危険なこと、やってはいけないこと、ルールを学べる。疑問や課題をもち、因果関係を考えるなど思考力が育つ。このような個人の変化・成長は、企画・組織づくりの重要な要素となる。

団体やグループで行う体験活動は効果も大きい。登山等の「挑戦型体験活動」では、安全、自身や他者の能力・実態を考え、判断したり、決断したりする力、困難を乗り越える力が身に付く。自然工作、キャンプファイヤー、雪像づくりなどの「創造型体験活動」では、課題を明確にもち見通し、実践力や創造力が伸びる。また、仲間と取り組む野外炊飯、妙高アドベンチャーなどは、組織づくりにかかせない人とかかわる力、自分の意見を他者に伝える力、聞く力、思いやる態度、折り合いをつける力が高まる。さらに、活動では「妙高型体験学習法」の手法を用い、課題設定、体験活動、振り返りと言語活動と体験活動をスパイラル式に繰り返す中で、前述の力がより確かなものになり、企画力や組織力アップにつながる。

初任者研修や若手研修等、職場を離れて、豊かな自然の中で体験活動を取り入れた研修を企業、NPO 等でも、ぜひ取り入れてほしいと強く願っている。

9月の例会プログラム

例会日	プログラム	会場
9月2日	卓話 上越教育大学 教授 稲垣応顕 様 演題 今日の子供の心理的特徴と教育カウンセリング	デュオ・セレッソ
9月9日	卓話 株式会社MTO 代表取締役・薬剤師 押山貴光 様 演題 知っているようで知らない薬の話	デュオ・セレッソ
9月16日	卓話 一般社団法人きたしる相続相談センター 理事・特定行政書士 荒木 新 様 / 演題 未定	デュオ・セレッソ
9月23日	法定祝祭日 休会日	
9月30日	卓話 vivace 代表 佐藤佳実 様 / 演題 ロータリーソングから見えるもの	デュオ・セレッソ